中医協　総－１－５
１７．８．３

平成１７年８月３日

中央社会保険医療協議会
会長　土田武史　殿

高度先進医療専門家会議
座長　猿田　享男

高度先進医療としての承認を取り消すことが適当な技術について

以下の高度先進医療については、その高度先進性、有効性等に鑑み、高度先進医療としての承認を取り消すことが適当と考える。

１．重症肥満の外科的治療法
２．筋内圧測定による筋コンパートメント症候群の診断
３．胸腔鏡下肺表面レーザー凝固治療
４．フローサイトメトリーによる先天性免疫不全症の診断
５．パイロニー病に対する体外衝撃波治療

参　考

高度先進医療から削除することが適当である各技術の概要

整理番号	高度先進医療技術名	取消理由	技術の概要	適　応　症	医療機関数	高度先進医療適用年月日
31	重症肥満の外科的治療法	これまでの合計で10件しか行われておらず、施設も増えていない。	重症の肥満に対し、胃の縮小術を行うことにより治療を行う。	重症肥満	1	昭62. 10. 1
71	筋内圧測定による筋コンパートメント症候群の診断	簡易法が充分に普及しており、本法での有意性は低くなった。	筋肉内圧の上昇をきたす外傷後の筋コンパートメント症候群の早期診断を行う。	外傷後の筋コンパートメント症候群	4	平6. 2. 1
82	胸腔鏡下肺表面レーザー凝固治療	4年間実績無し。 他の方法が優位をもっており、本法での有意性は低くなった。	慢性肺気腫のため異常膨張し、のう胞状となった肺表面にレーザーを照射し、のう胞を凝固縮小させ、呼吸困難を軽減させる治療法。	慢性肺気腫	5	平7. 7. 1
112	フローサイトメトリーによる先天性免疫不全症の診断	6年間で2例のみ。 遺伝子診断でも診断可能である。	先天性免疫不全症をフローサイトメトリー(流動細胞光度測定法)により診断することにより、個々の疾患に即した治療方法を選択することができる。	X連鎖性無ガンマグロブリン血症、X連鎖性慢性肉芽腫症、Wiskott－Aldrich症候群	1	平10. 12. 1
149	パイロニー病に対する体外衝撃波治療	1例のみの実施にとどまっている。 医療機器は薬事法上適応外使用であり、再検討を行うべき。	尿路結石に対して使用する体外衝撃波結石破砕装置を用いて、パイロニー病の病変部である陰茎の硬結部に衝撃波を当て、硬部の軟化、縮小あるいは退縮を促す。	パイロニー病の中で以下の条件を満たすもの。 ・勃起時の陰茎の屈曲あるいは疼痛がある。 ・保存的な治療が無効で、上記の症状が6か月以上固定している。	1	平15. 9. 1